

北海之光

7月号 北海道教区報

ハレルヤ 新しい歌を
主に向かって歌え
詩編 149 編 1 節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴

「神のコーヒー」

釧路聖パウロ教会牧師
帯広聖公会管理牧師
厚岸聖オーガスチン教会伝道所管理牧師

司祭 サムエル 吉野 暁 生

朝、息子を学校に送り出し、ほっと一息。コーヒーを淹れて飲む。保育園の子どもたちが登園する声を聞きながら、ゆったりとした時間が流れる。別に高いコーヒー豆じゃなくて、スーパーで買ってきた特売品だけど、おいしく感じる。ゆつくりと思いを巡らせていると「神のコーヒー」という言葉が浮かんできた。小さいころ、両親に連れられて毎週聖餐式に通っていた。僕たち兄弟が小さかったからか、いつも途中からだった記憶がある。おそらく説教中に入っていたのだろう。礼拝堂の椅子の間で、母が作ったボタンやスナップを練習するおもちゃで遊んだり、絵本を読んだりしていた。礼拝堂の真ん中の赤じゅうたんの上を走って怒られたこともあつ

たはずだ。礼拝は何をしてい
るのかよくわからなかったけ
ど、歌は好きだった。その中
でも一番好きな歌はこんな
歌だった。「よしのつゝみ
をのぞききゝたゝもゝ
ゝ、かゝみのこゝひゝよゝ」
これは毎週歌っているし、自
分でも何となくわかるので、
大きく声を出していたような
気がする。子ども心に「神の
コーヒー」っておいしいのか
な」と思った記憶がある。残
念ながらももう少し大きくなつ
た時、この歌が「神のコー
ヒー」ではなく、「神のこひ
つじ」だと気がついて、一氣
に恥ずかしくなってしまうた
けれども。そして大きくなつ
て初めて飲んだコーヒーはと
ても苦かった。

考えてみれば、イエスさま
のいた時代に、多分コーヒー
は無かつたであろう。だから
聖書にはコーヒーは登場しな
い。残念だけど「神のコー
ヒー」の根拠を聖書に求める
のは難しそうだ。
コーヒーは不思議だ。子ど
ものころは砂糖とミルクを入
れなければ飲めなかつたけ
ど、今はもっぱらブラック
コーヒー。ただの苦い焦げた
豆の汁ではなく、様々な香り
や味を感じられるものだと思
うようになった。苦味だけで
なく、甘みや酸味も感じる。
香ばしさや甘いにおいも感じ
て、とても複雑だ。しかし、
最初にそうやって飲んでみよ
うと思つた人は偉いと思う。
多分薬の一種だつたのだろう
とも思う。コーヒーにこだわ
りのある人は、自分で焙煎し
たり、挽き方や淹れ方にこだ
わつたりするようだ。わたし
はそこまでできないけれど
も、時々コーヒー屋さんから
豆を買ってきて、挽いてみた
りする。

喫茶店のマスターに話を聞
くと、使うフィルターや淹れ
方によっても味が変わるの
で、豆の挽き方も変わつて
るようだ。話を聞いていくと、
豆の産地や焙煎の強さでも味
が変わってくるとのこと。確
かに豆によって変わるの
で、わたしの舌でも何とな
く感じられた。おもしろい
で、たくさん種類のものを飲
ませていただいた。
こうやって考えていくと、
自分のその時の気持ちや状況
に合わせて焙煎してコーヒー
を淹れて、それがぴったり合
うなんて、「もはや神の領域
なのでは」と思われる。そ
れが「神のコーヒー」なの
か、とぼんやり考えた。
文章を書き上げて一息つ
く。昔車屋で働いていたころ
は、休憩時間なんでもつた
ないし無駄と思つていた。け
れどもこうやって何もせず
にぼーっとする時間が、わた
したちには大事なのだと思
う。そのために神さまはわた
しちにコーヒーをもたらし
たろうかと思つた。
豊かな香りに包まれたほん
のちよつとの時間。こうして
一息つける時を、いつも大事
にしたいと思う。

—心の窓をひらく—

福音と私(二六〇)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

釧路聖パウロ教会信徒

ダニエル 吉野 智生



【私の好きな聖句】
氣を付けて目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなた方には分からないからである。

がありました。教会に通うのは学校に通うのと同じように当然のことであり、また自分の居場所の一つでもあったのです。

—マルコによる福音書一三章三三節
当たり前であるということ
教会に通うことは、気が付いたら当たり前前で、幼少のころは千葉県におりましたので、横浜教区の市川聖マリア教会に家族皆で通っておりました。当たり前のように日曜学校に行き、子ども礼拝に出て、そのうち普通の聖餐式に出るようになり、やがてサーバーまで行うようになりました。一方、学年が上がっていけば部活もあり、学校の友達付き合いも、まあ、私はあまり多くありませんでした

中学、高校と上がっていくと、また新しい関係ができてきます。教会関係では教区の中高校生キャンプがあり、同年代の中高校生との交流や、教区内の他の教会を訪ねることもありました。教会ごとに建物も人も、礼拝の方法などもそれぞれ特色があり、面白いものでした。

大学は北海道の酪農学園大学に進学しましたが、そこで何故か野鳥にはまってしまいました。学生としては勉強やサークル活動の比率が多くなり、学年が上がれば研究室での活動が増えました。獣医学

部で合法的に野鳥を扱うために寄生虫を研究対象とし、寄生虫にはまって最終的に院にまで行きました。面白かったので仕方ありませんね。大学には礼拝堂があり、週に一度礼拝がありましたので、なるべく出るようにはしていましたが、教会に通う頻度はどうしても減ってしまいました。その後就職して熊本で約二年、その後転職して現在は釧路におります。

さて、我々が当たり前だと思っていることは色々あります。一方で、実はそれが当たり前ではないというのも多くある話です。恥ずかしながら、全国の小中学校にはだいたい管弦楽部があると、各ご家庭ではお正月のお雑煮は二種類作るものとか、大学生になるまで思っていたお馬鹿さんがこちらです。また、現在いる釧路では、少し車を走らせればそこかしこにタンチョウがいて、日常的に見ることができます。地元の人には当然のことであまり意識されていませんが、全国的に、また北海道としても珍しい光景なのです。近すぎると、或いは周りを知らない気が付かないこと、というのは往々にしてあります。

まあそんな戯言はさておき、私にとつて神様はいらっしゃるのですが、ではなぜ信じるのか、或いは、なぜそれが当然なのか、と考えたことのある、或いは問われたことのある方も多いことでしょう。実際、信じていて何かいいことがあったのかとか、何で信じるんだと聞かれることもあります。正直な話、大きなお世話であります。私の信仰は私のもの、また主のものであり、誰かにどうこう言われる筋合いはないのであります。が、それを言っちゃあおしめえよというやつであります。神様は自動販売機ではありません。何かを、例えば信じたから、これだけやったから報いがある、或いは、見返りを期待できるから信じるというの、それは信仰ではないでしょう(個人の感想です)。

何かの拍子に、神様の存在を感じることはあります。巡

り合わせであったり、人との出会いであったり、仕事のことであったり。或いは景色や、生き物たちの生き様や美しさなど、様々にあります。最初の就職は、それまでやってきたことが通じてなのか、野鳥の病気に関することでした。九州でツルとそこに関わる人々に遭い、ツルの縁で釧路に渡りました。その話を持ってきてくれたのは大学の恩師を含む、今までお世話になった方々でした。そういうことは誰にとつても当たり前のように存在し、ある時にふと気づく。そういうものなのだろうと思います。



感謝 北海の光献金(敬称略)

常置委員会報告

第八回 六月一三日

協議事項

- 一、奏楽クリニック補助に関する件
- 二、新型コロナウイルス感染症に関する件
- 三、東北教区との宣教協働に関する件



主教室から

六月三〇日、ナザレ修女会の活動終了感謝礼拝が東京のナザレ修女会聖家族礼拝堂にてささげられました。

幸せなことに、子どもの頃から修女会の存在は当然のことでした。仙台にはナザレ修女会仙台支部があり、主日礼拝や教区の行事、研修会にシスターたちが参加されています。十和田湖には夏に過ぐす修院と礼拝堂があり、司祭であった父と弘前から伺って聖餐式を一緒にすることが何度かあります。美しい湖畔に建つ小さな木造の礼拝堂での静けさと風の心地よさ、整

えられたリネンや聖貝類を今でも憶えています。ヤギもいました。

北海道教区にも何度もシスターたちは来訪され交わりを重ねてくださいました。渡辺政直主教のご依頼により、一九八三年には稚内聖公会に三ヶ月間八千代修女が滞在してくださいました。直接シスターに会ったことがない方でも、修女会で一枚一枚祈りながら作る聖餐式のウエハースをいただいた方はたくさんいらっしゃるはず。何よりも大事なことは、シスターたちが各教会・伝道所、施設、信徒・教役者のために日々祈ってくださいましたという事です。わたしたちが知らずとも、日本聖

- 四、レインボープライドへの協賛に関する件
- 五、レインボープライド関連企画に関する件

公会はナザレ修女会のシスターたちに八五年前祈りによって支えてもらってきたのです。

感謝礼拝の後に順霊母がご挨拶され、修道生活は幸せだったとお話されました。他者のために祈る方々だからこそ、祈られること、力強さを、ご存知なのだ、またひとつ大切なことを教えていただきました。祈りには力があります。ナザレ修女会の活動終了は本当に切なく寂しいのですが、これまでの働きに心から感謝し、シスターたちがしてくださったように、わたしたちも誰かを祈りによって支えていきたいと思うものです。

主教 マリア・グレンス 笹森 田鶴

津田 弘子 (千葉県柏市)

聖公会生野センター 30周年記念感謝礼拝

「そこにキリストは共にいる」

～弱った手に力を込め よろめく膝を強くせよ。(イザヤ:35:3)～

2022年10月10日(月・休)

場所: プール学院中学校・高等学校メアリーズホール

〈大阪市生野区勝山北1-19-31〉

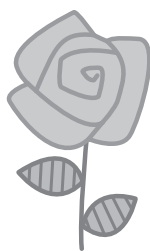
十 教区逝去教役者 記念聖餐式

八月二〇日(水)

午前一〇時三〇分 於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

- 執事 高津 守三郎
- 司祭 林 兼治
- 執事 高橋 俊夫
- 伝道師 高野 万次郎
- 司祭 上田 貞雄
- 伝道師 清川 成七
- 伝道師 石原 園井
- 司祭 村瀬 敬輔
- 執事 高橋 俊六



司祭パウロ三澤康二師追悼



された。

三澤先生は無理ができないおからだゆえ、ご自身、健康に配慮され、出会う人にも、その健康をいたわり気遣われた。

敬愛する司祭パウロ三澤康二先生が、去る五月一日(水)、入所していた施設にて、安らかに主のみもとに召された。翌月には満九八歳を迎えようとする長寿を全うされたご生涯であった。

五月一二日(木)、一三日(金)と札幌聖ミカエル教会にて通夜の祈り、葬送式が営まれ、笹森田鶴主教が司式された。

三澤先生は若き日に結核で長期療養を余儀なくされた。その生と死の苦しみの中、キリストに出会い、聖職への道を志し、その道を歩まれた。その証を先生は繰り返し口に

神様に生かされた九八年の生涯

パウロ三澤康二司祭を偲んで

司祭 ジェローム 大友 正 幸

三〇年ほど前まで、僕が諸用務で東京や大阪に行くと出会った同級生や友人達から「え、三澤さんまだ生きてるの」と言われたものです。

三澤司祭は、戦時中より長い間、肺結核のため、札幌にある簾舞(みすまい)の結核療養所に入院され、そこでキリスト教に触れ、洗礼を受けた方で、神学院に入られた時すでに三〇歳を越えられ、しかも片肺でした。

ちょっと風邪気味でも、ゼーゼーと苦しうで、ご本人も、私たちとても長生きするとは思われませんでした。が、その三澤司祭さんが仲間が一番長生きで、九八年のご生涯を生き抜いたので。

年齢こそ違え、私と三澤司祭は神学校の同期で、初めて会ったのは三澤司祭が死の淵からよみがえり、新たな人生

を歩き始めるため、療養所を退院した日でした。

苦小牧にお住いのH・W・ハンセン司祭が、自家用のジープで三澤司祭を簾舞の結核療養所から自宅まで引越すのを、僕もお手伝いしました。僕の記憶では三澤司祭はとてもお元気で、結核の人、一〇年以上も闘病していた人とは思えませんでした。

当時、結核にかかると特効薬もなく、療養所に入るという事は、死への旅立ちに等しかったのです。多くの人は、二度と生きて家族の元へ帰られるとか思わなかったでしょう。三澤司祭は大正末期遠軽

に生まれ、旭川中学を経て室蘭の高等専門学校に進み、将来は冶金技師を志しておられたようです。しかし、ここで挫折、結核のため簾舞療養所の人となりました。

札幌聖ミカエル教会の宣教

は、戦後間もなく上田主教の就任直後から始まったと言われ、ほぼ時を同じく簾舞の療養者のための聖書勉強会を始めたようです。三澤司祭はその受講者のお一人で、B・D・タッカー司祭の影響もあり、一九五二年上田主教より洗礼を受けられました。同時に聖ミカエル教会簾舞グループの発足です。三澤司祭は五四年伝道師に認可され、簾舞グループの責任者でもあり、聖書の学びを中心にグループは成長、手刷りの機関誌「聖希望(のぞみ)」を発行して全国に配布しておりました。

この機関誌は、死を乗り越えた人々の信仰の証にも溢れ、多くの読者を得ていたようです。結核は特効薬が見つかるまでまさに死の病で、人々の恐怖と、差別の歴史を生み出しておりました。

イエス様は「私はいのちである」と言われました。三澤司祭はその命の道を歩み、説き続けられたのです。

(北海の光編集委員会)

《略 歴》

一九二四年(大正一三) 六月九日、父庫助、母タケの二男二女の長男として遠軽町に生まれる。

一九三一年(昭和六) 遠軽尋常高等小学校入学。

一九三七年(昭和一二) 北海道庁立旭川中学校入学。

一九四二年(昭和一七) 室蘭高専(現室蘭工業大学) 入学。

一九五二年(昭和二七) 四月、国立第二療養所(篠舞)にて上田一良主教より洗礼、同年五月、同主教より堅信を受ける。

聖ミカエル教会において、B・D・タッカー司祭から強い影響を受け聖職を志す。

伝道師認可を受ける。

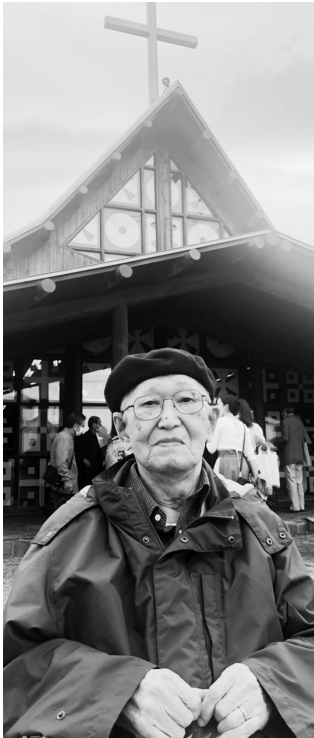
一九五五年(昭和三〇) 聖公会神学院入学。

一九六一年(昭和三六) 聖公会神学院修了。同年六月、執事に叙任される。

一九六三年(昭和三八) 四月二三日、有木祥子と聖ミカエル教会にて聖婚式を挙げる。二子に恵まれる。

一九六六年(昭和四一) 聖ミカエル教会のほか、旭川聖マルコ教会、室蘭聖マタイ教会、有珠聖公会、深川聖三一教会、留萌キリスト教会(管理)、小樽聖公会で牧師、定年退職後は新札幌聖ニコラス教会で嘱託牧師、教区事務所主事などを歴任する。

二〇二二年(令和四) 五月一日(水)、午前二時三分、入所していた施設にて、安らかに天に召される。九七歳一ヵ月。



『新主教と青年の交流会』を終えて

報告者 司祭 ノア 上 平 更

六月二五日午前十一時より、高校生から三五歳までの一三名の青年たちが八角堂に集まり、笹森新主教との交流会が行われました。コロナ禍の影響で夏のキャンプなど中止が続き、久しぶりの集会で少し緊張気味のスタートでしたが、事前に用意された昼食をいただきながら、懐かしい顔ぶれとの再会に話題が途切れることなく時間が過ぎていきました。食事の後は椅子を向き合わせて自己紹介、そして交流ゲーム。シンプルな中でお互いを知っていく機会となりました。

交流のゲームの後は笹森主教が教区会館をご案内くださり、普段青年たちが入ったことのない部屋をご案内いただきました。二階の聖霊礼拝堂から主教室、和室、そして天井裏の部屋まで見せてもらい「青年は将来を担う存在では

なく、今の教会に必要な仲間です。皆さんの活動の場として教区会館を活用してください」というお勧めもいただきました。教会の中で見守られているだけの存在から、自分たちの信仰について、今を生きるキリスト者としての歩みを支えてくださることを確信して、祈りの内に交流会を終えることができました。

「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい(マタイ一八・一〇)」とあるように、私たちの教会の成長期にある一人一人を大切に、これからも彼らのための様々な機会が与えられるようお願いしております。

青年担当者からのお願い

コロナ禍にあつて、ここ数年は教区の青年たちとの積極的な活動を控えておりましたが、少しずつ教会ごとの青年の活動も再開していると伺っ

ています。みなさんの教会で、そして家族で、青年たちの教会生活のために教区でも企画を考えてご案内したいと願っております。お気軽にお尋ねください。

問い合わせ窓口…

宣教活動推進部

「青年グループ」

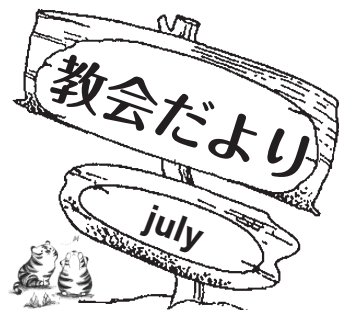
担当 永谷亮司祭

管区青年担当者・青年委員

上平更司祭

nskk.hokkaido.seinen@gmail.com





▽旭川聖マルコ教会

六月より、永谷亮司祭が教会の牧師と保育園のチャプレンに就任しました。心より歓迎いたします。これからの働きをお祈りいたします。また、九年余りの広谷和文司祭の働きに感謝いたします。ありがとうございました。今後とも体調に留意され、神様のためにご奉仕出来ますようにお祈りいたします。

一九日、新主教笹森田鶴師の初巡回がありました。当日永谷司祭の牧師就任式も行われました。コロナ禍の下でありましたが、多くの信徒と保育園の職員が礼拝に出席されました。喜びにあふれました。二七日、アグネス臺灣子姉が主のみもとに旅立ちました。魂の光明と平安をお祈り

しますとともに、ご家族に慰めがありますようにお祈りいたします。

保育園では、江丹別あらかわ牧場の畑でジャガイモ植えを行いました。園児たちは、今から秋の収穫を楽しみにしています。

▽岩見沢聖十字教会

いつもダンディな函館の藤井八郎司祭。六月二十六日、三年ぶりの「出会いと交わりの日」。奥様、江別のお嬢様、お孫様、教会員と共に聖餐式の恵みに与る。岩見沢在任時の懐かしい話に終始。最後は記念写真を撮りお別れしました。

毎週の礼拝の最後に、聖歌「キリストの平和」を賛美。「一日も早くウクライナに平和が戻りますように。人々が守られますように」という祈る気持ちで、皆で心一つにして賛美しています。奏楽者が選曲しました。私達は今日も「キリストの平和」を歌います。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

(伝道所)
コロナの感染が落ち着きつ

つある中、聖パウロ教会の活動も以前のように活発化し始めました。

コロナ真最中の頃は止めていた奉献歌を復活、礼拝中の聖歌が二曲から三曲に。

また今月からは、第二週の礼拝後、吉野司祭作成の冊子「教会問答あれこれ」で一〇分程の勉強会。第三週の礼拝後にはオリーブ会、さらに第四週には聖歌の練習と、以前にも増して活発に。暫くはこのスタイルが続きます。

六月三日、ハリストス教会で行われた世界祈祷日、パウロ教会からは六名の信徒が参加し、「随分大勢来て頂きましたね」との高い評価も。吉野司祭は毎週火曜日、着々と信徒訪問。六日は津田勉・正子夫妻、八日には佐田菊男兄(厚岸)を訪問しました。

二六日の「出会いと交わりの日」、吉野司祭は網走・北見へ。パウロ教会には三浦千晴聖職候補生にお出でいただき、「み言葉の礼拝」が行われました。信徒一同まさに「出会いの日」となりました。感

謝。

▽新冠聖フランシス教会

三年ぶりだそうで、六月二六日(聖霊降臨後第三主日)「出会いと交わりの日」に、六月から小樽聖公会へ異動と

なられた池田亨司祭をお迎えして、み言葉と聖餐に与る幸いをいただきました。池田先生は、かつて二〇〇九年に執事として札幌キリスト教会に勤務しておられ、当教会でのご奉仕をいただいたことがありました。それも当時の内海聖職候補生と交互に、ひと月に一度の「みことばの礼拝」でした。午後からは平取でのご奉仕、まことにご苦労さまでした。

▽帯広聖公会

六月の帯広は九一年ぶりという低温が続き、農作物の影響が心配されています。そんな寒い中、一日、幼稚園の運動会。子どもたちは元気いっぱい頑張りました。一四日、牧師館にエアコン取付。

一八日、雨で延期されていた草取りが行われた。二六日「出会いと交わりの日」、留萌より木村司祭をお迎えして、さ

さやかな茶話会で久しぶりに交わりの時を持つ。日常を取り戻しつつありますが、一日も早い戦争の収束と世界の兄弟姉妹が平和に暮らせる社会を心から祈ります。

▽稚内聖公会(伝道所)

六月二二日(火)、永谷司祭の司式・説教で聖餐式をお捧げいたしました。前日には執務室・ベストリーの片付けと、礼拝堂入口受付のレイアウト変更が行われて、少しばかり雰囲気に変化がありました。去年の秋より故障していた聖卓上部の照明も五月に交換修理が完了。

八月二八日(日)には「道北四教会合同礼拝」が予定されています。今年も感染症対策のため分区内での呼びかけとなりますが、笹森主教様をお迎えして稚内でプログラムが持てますことを、今からとても楽しみにしています。

▽函館聖ヨハネ教会

五日、二階オルガン室天井より祭壇に向かって真赤なりボン三本が聖霊降臨を再現。風に揺られると聖霊が降り注ぐかのよう。その中で司式を

されている上平更・藤井両司祭の赤のストールも聖霊に満たされているようでした。

二六日「出会いと交わりの日」に、遠路帯広から阿部恵子司祭来函。函館で初の女性司祭司式の聖餐式。落ち着いた声の司式に感激との声有り。

最近では観光客、修学旅行生等見学者も徐々に回復。オリジナル絵葉書(夜景とスケッチ画の二種)も増刷。一〇年ぶりに黒田百合子姉がオーガニストに復帰。感謝。

▽札幌キリスト教会
六月五日のペンテコステには一〇名が集い礼拝をお捧げしました。一二日の三位一体主日には、青年有志が、青年活動資金のためボンデケージョ(チーズ入りのパン)を作り販売しました。一九日、創立一三〇周年記念礼拝。現在休止中の愛餐会再開の試金石として、一階ホールをコロナ対策を行いながら、持参昼食のための食堂として開放する事としました。二六日「出会いと交わりの日」には、信徒奉事者の司式と遠藤彰さん

の証によりみ言葉の礼拝が捧げられました。三〇日、クララ小西美智代さんがご逝去。霊の平安をお祈りいたします。

▽札幌聖ミカエル教会

幼稚園の旧園舎の一部をいろいろな活動のために用いることとなり、教会と新園舎のデザインに合わせて外壁の工事をを行い、統一感のある三つの建物となりました。地域に愛され、必要とされる場所になりたいと願っています。教会も札幌市の補助を受けて、懸案だった屋根の一部と外壁の補修を行うことになりました。二六日は「出会いと交わりの日」。司祭の有珠聖公会

出向のため、み言葉の礼拝となり、白沢圭子さんから奨励をいただく。イギリス滞在中に接したナショナルトラスト運動など、自然を愛し、守ろうとする市民の姿を紹介くださる。八月の主教巡回に向けて洗礼、堅信の準備会を行います。主の導きがありますように。

▽新札幌聖ニコラス教会

聖霊降臨日・三位一体主日

を終え、ニコラス教会の外の緑が豊かになる時と合わせて緑の季節がきました。懸案していた駐車場のマンホールは無事交換が終了して、駐車する車のタイヤもこれで一安心。二六日の「出会いと交わりの日」は松井司祭が来訪。聖餐式をお捧げくださいました。礼拝後には先生を囲んで一〇名ほどでの昼食・歓談の時を楽しむことができました。

▽聖マーガレット教会

六月一日の人事異動により、池田司祭様ご一家は、五年間のご奉仕を終え、新任地小樽へ引越された。これまでのお導きに感謝。管理牧師に笹森主教様が、協働司祭に下澤司祭様が派遣され、牧師館には定任教役者として三浦聖職候補生が住まわれた。教役者三人により礼拝、牧会そして宣教等を担ってください。この恵みのご配慮に感謝します。

六月四日、恒例の「ニセコワーク」。約二〇年間春と秋に続けてきた、六百坪の管理地の草刈り作業を有志数名で

行う。これが最後のワークになるかも?植えていた花株数個を教会裏の畑に移植、先日花が咲きました。

「出会いと交わりの日」には、三浦聖職候補生は釧路聖パウロ教会へ。木村信徒奉事者による司式と奨励で、み言葉の礼拝を捧げる。

▽平取聖公会

近年、日高地方は梅雨になる傾向があり、今年も六月中旬から雨が続いており、牧草の収穫などが遅れています。二六日は久しぶりの「出会いと交わりの日」礼拝でした。平取には小樽聖公会に異動になったばかりの池田牧師が、午前の新冠に続いて、午後、平取でご奉仕くださいました。平取での司式説教は初めてでした。池田司祭がチャレンをしている岩見沢聖十字幼稚園のハンディのある女兒の笑顔から「平和をいただいた」ことを証しされました。感謝。

▽紋別聖マリヤ教会

六月に入り、気温も上がり雨の日が多く、例年とは違う天候が続いております。天

気図を見ると梅雨前線が北上しており、異常気象と言っても良いでしょう。紋別地方の酪農の現場を覗いてみると、低温と長雨による牧草(一番草)収穫の遅れ、デントコーンの生育の遅れが目立ちます。それ以上に悩まされているのは燃料代の高騰、円安による配合飼料等の高騰が挙げられます。これに加えて家畜伝染病の感染がないことを祈ります。

▽有珠聖公会

六月二六日「出会いと交わりの日」。札幌より下澤昌司祭をお迎えして聖餐式を捧げました。同行された下澤依子さん、オルガン奏楽の奉仕をしてくださり感謝。礼拝後は、お茶の会を通して親しい交わりの時が与えられました。下澤司祭とお会いするのが初めての信徒が多く、「出会いと交わりの日」の意義を実感する時となりました。二七日、大町司祭、来有。京都からのご家族と共に林家の墓地で墓参の祈りが行われました。広い境内地は、信徒の草刈りによって整えられてお

り感謝。

▽留萌キリスト教会

中旬までは、やや涼しく雨の少ない六月でした。教会の礼拝は少子高齢化と過疎化の影響が顕著ではありながら、信徒それぞれが信仰生活と奉仕を懸命にお捧げしている姿は変わることがありません。

聖霊降臨日に、土門明子さん宅にて家庭聖餐式を行いました。ここ数年自宅療養が続いています。訪問介護の手を借りながら、夫の晃さんが毎日お世話されています。千葉雅子さんも三年近く自宅療養でしたが、八月から礼拝に復帰したいと意欲を表明されておられます。喜びです。

▽網走聖ペテロ教会

全ての人に平和がありますように祈ります。今年は教会屋根や十字架、窓わく、手すりの修繕に向けて計画がなされています。礼拝、諸集会は自分の体調や仕事、生活を考えつつ、皆さんで協力しはげまし合いながら守られています。二六日「出会いと交わりの日」は、釧路から吉野司祭ご家族が来られ、礼拝後ご家

族を囲んでなつかしいお話を豊かな心の喜びを分かち合えて、感謝致します。一七日、「ホームのあ」に新しい子どもが加まりました。幼児から中学生、五名。子ども達が安心に生活出来るよう祈ります。

▽北見聖ヤコブ教会

草刈り時にお隣りさんとお話し出来ることも感謝。葡萄棚のところの雑草を抜き、溝を掘り米ぬかを入れ、土をかぶせ、甘い葡萄が実ることを期待しています。六月九日、ギデオン協会の方々が見えて、報告と証しの時をお持ちくださり感謝。イエス様を伝える情熱に襟を正されました。二六日の「出会いと交わりの日」には、釧路より吉野司祭ご家族が見えて、感動と懐かしさで時間が足りないほどでした。二九日には毎月の誕生日ハガキを岡瑛子さんが作り持って来てくださいました。感謝。

▽今金インマヌエル教会

六月は、晴天が続く日々で、農作物からは、雨がほしいと声が聞こえて来ます。六

月二日は藤井司祭を迎え、三位一体主日の礼拝を守る事が出来ました。一七日には信徒全員で教会周辺の草刈りに汗を流しました。栗の木やナラの木、松類の幼木は順調に育っており安心です。六月二六日、「出会いと交わりの日」の礼拝は笹森主教様と上平司祭に来ていただきました。

二五年間務められた植松主教様に感謝しながら、新しく着任された笹森主教様と挨拶する事が出来ました。挨拶は心と心の間を結ぶ帯です。今後共よろしくお願い致します。

▽小樽聖公会

六月二日(日)三位一体主日。聖餐式に先立ち笹森主教司式にて牧師任命式が行われる。池田司祭が小樽聖公会牧師に任命され一同あらたな思いを抱く。なお、雪害により破損を受けた礼拝堂、その修復工事内装部分の工事を終了し、約四ヶ月ぶりに礼拝堂にて公祷をおささげする。

二六日(日)教区行事「出会いと交わりの日」。内海信武司祭を迎えて聖餐式。大友

正幸司祭が会衆の一人としてご出席。礼拝後、懇談の時を持つ。出会いと再会の交わり、この日にふさわしい場と時になる。主に感謝。

▽深川聖三一教会

六月五日、委員会、婦人会。バチラー八重子伝道師について学ぶ。九日、道北牧師会。新主教様も出席。新型コロナへの礼拝の対応について相談す。一二日、教会報発送作業。一四日、保育園職員会議、地震への避難対応について岸本保育士による園内研修。一九日、春の清掃、七名参加、小野垣道代さんから差し入れあり、感謝。

一九日から礼拝に於いて旧約聖書の朗読を再開す。二六日「出会いと交わりの日」のために大町信也司祭来訪、先生の説教から主イエスのうれしいニュースを聞けました。

▽苫小牧聖ルカ教会

故天城英明主教・故町田巖執事らが尽力し設立した「苫小牧キリスト教船員奉仕会」が諸般の事情により三六年度の活動に幕を下ろしました。六月三〇日の臨時総会に於い

て全会一致で解散が承認され、今後建物の解体などの残務処理が行われます。これまでの皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

六月二六日の「出会いと交わりの日」は旭川・永谷亮司祭により聖餐式が行われました。永谷司祭と苫小牧との関わりを知り、より親しみを感ずりました。ただ、参列者との茶話会が出来なかったことを残念に思います。

▽室蘭聖マタイ教会

六月二日、松井司祭司式で聖餐を受ける。式後マタイによる福音書一八章を輪読。その後、委員会を開く。外壁修繕見積もり検討。

二六日「出会いと交わりの日」は、札幌ニコラス教会の上平更司祭と未奈夫人が来られ、聖餐を受ける。聖歌は久しぶりのオルガン、未奈夫人の素晴らしい音律で、皆張り切って熱唱しました。

二九日、苫小牧の松井司祭との「ヨブ記」輪読会は大雨のため中止となりました。残念でした。感謝。